

宗像市吉武地区視察研修

と き : 平成21年9月29日(火) 午後2時から午後4時20分

と ころ : 宗像市吉武地区コミュニティセンター

● 鳥栖市まちづくり検討委員会会長あいさつ

全国的に見ても先進地である宗像市を勉強したい。先進地であるが故の課題についてもご教授願いたい。

○ 吉武地区コミュニティ運営協議会会長(河東)

宗像市は福岡市と北九州市のちょうど中心。ベッドタウンとして急激に人口が増え、昭和55年に市に昇格。市内に大きな企業がないのは水がないから。3つの大学を有するが、人口は9万5千人程度で横ばい。

吉武地区は人口2千人程度。高齢化率は36%、15歳未満は8%弱。純農村地帯で昭和56年に県のコミュニティ指定を受けてはいたが、なかなか前に進まず、今のコミュニティ協議会が発足したのは平成15年。

○ コミュニティ事務局長(大田)

事前にいただいた質問事項について、回答していきたい。

★組織・運営について

Q1 コミュニティ運営協議会への加入団体(構成員)は、13地区すべて同じですか?

NPO法人の加入はありますか?

A1 (視察研修資料P3を参照しながら)若干の違いがあるが市内全13地区ほぼ同じ。

NPO法人の加入はない。

Q2 コミュニティ運営協議会の会長の選任(自治会長の充職あるいは選考委員会など)は、どのようにされていますか?

事務局長の選任については、どのようにされていますか?

A2 役員は会長のみ任期2年、他の役員は1年、ただし再任を妨げない。副会長3名のうち1名は自治会長会の長、自治会代表役員は自治会長会の副会長がなっている。

毎年役員選考委員会で決めているが、人材不足から今年度の役員選考会を次のように改めた。(いままで)部会長5名+自治会長2名→(これから)部会長5名+自治会長8名

Q3 コミュニティセンターの管理運営については、コミュニティ運営協議会で指定管理者を受けておられますが、受ける前と受けた後での違い(大変さややり易さ)などはありますか?

A3 コミュニティセンター以外で宗像市の弓道場の管理を指定管理しているが、指定管理の前後ではあまり変わらない。

Q4 自治会ごとの各種団体(子どもクラブ、老人クラブ、婦人会など)とコミュニティ運営協議会との活動や行事の棲み分けはどのようになっていますか?

・コミュニティ運営協議会により、各種団体も地域の連携等がとれるようになるが、各自治会の各種団体等の活動・組織はどうなっているのか(以前どおり?地域で大きな組織を再

編し廃止？)

- ・少子高齢化により将来構成員の絶対数が減少することも、地域コミュニティの組織化の一つの要因であると考えため、自治会・団体等も地域コミュニティと同様に再編はされたのか(計画しているのか)？

A 4 自治会内の各種団体の活動は従来どおり。再編はしていない。ところで5年前から小学校と地域の合同運動会を開催している。小学校と連携してふれあいの場を提供している。

健康福祉部会の福祉会とボランティア、市の職員で1日健康相談などを実施している。

コミセンを開放して遊ぼう会やカラオケ大会が開催されているが、交通の便が悪いので地域づくりの方がボランティアで送迎をいただいている。

地域づくり部会の構成団体である高齢化と人材不足でソフトボール協会が昨年解散した。

農協青年部も解散した。部会も合同でやろうという話もあったが、地域にお願いして、地域代表を部会に入れた。

Q 5 コミュニティ運営協議会(13地区)の連絡・連携体制は、どのようになっているのか？

A 5 会長会議、事務局長会議、担当部会長会議などを開催し連携している。

Q 6 コミュニティ運営協議会における消防団の位置付けや活動内容はどうなっていますか？

A 6 昨年から自主防災組織づくりに取り組んでいる。消防団は環境整備部会に所属され、今年も消火器の有効期限や火災報知機について日頃から支援やアドバイスをいただいている。

Q 7 コミュニティ運営協議会への市からの委託・協働業務は、どのようなものがありますか？

今後増加(業務内容)していきますか？

A 7 市政の周知、市事業の連絡調整、改善提案(要望)、市委嘱委員の推薦、募金の取りまとめ、住民票の発行など。

★行政支援について

Q 8 地域コミュニティに対する自治会からの負担金などは、どうなっていますか？

- ・世帯あたりの年間負担金額(13コミュニティで統一金額なのか?)

- ・上記負担金は、新規徴収なのか?それとも、今まで出していた自治会などへの負担金から一部振り替えなのか?

A 8 地区費(自治会費)として1世帯年間2600円を負担(協議会によって違う)してもらっているが、そのうち200円をコミュニティ運営協議会に充当。

Q 9 今までの各自治会や各種団体への補助金が統合され、まちづくり交付金としてコミュニティ運営協議会へ支給されるようになっておりますが、

- ・取りまとめられた補助金の従前のメニューや補助額どおりに各自治会・団体等に交付しているのか?メニューを再編(縮小)などしているのか?

A 9 行政区長制度が廃止され、以前の報酬の80%が吉武地区に交付されるようになった。減額分はコミュニティが実施する諸手続き分。減額された分は事業活動費として交付された。

従来の自治会や団体がもっていた補助金額は分からない。

今までは「これだけお金をあげるので、こんな事業をしましょう」だったが、今は予算委員会の会議を経て「こんな事業をしたいので、これだけお金をください」となった。従って、細くなった事業もあれば大きくなった事業もある。市の指導を受け、国や県の補助金を受けることもある。

来年度からは事業の評価委員会で評価をしてもらうことを検討している。

Q10 コミュニティ運営協議会の設立準備期間（約1年間）や設立後の行政からの支援があれば教えてください（期間限定的なもの、財政的なものや職員の派遣など）。

A10 設立準備期間には週に2日ほど職員が派遣されていたが、現在は月に4日ほど。

設立後3年間はコミュニティ活動事業推進補助金として3年間で260万円の補助があったが、備品や活動資金に使った。吉武地区では植樹に使った。

質疑・意見交換（●は鳥栖市まちづくり検討委員会委員、○は宗像市の発言）

Q 市への要望は担当職員を通して出すと思うが、要望が通らないときはどうするのか？

A 小さなことは各自治会長から改善提案書をコミセンの担当職員に提出する。1自治会で処理できない事項は、吉武地区で提案書を出す。施設の建設などは吉武地区では開発協議会を作って、行政ができるもの、地域で処理できるものを判断している。

要望が通らないとき、会長などが直接市に出向くことは少なくなく、そうせざるを得ない。

今まで重要性や緊急性を説明してこなかったこともある。

Q 地域の課題が生じた場合、①とにかく役所に行く ②地域でできるだけやっただけどうしても解決しないので役所に行く の2通りあると思うが・・・

A 自分たちで調査をせずに、いわれた言葉のまま要望していた。今は資料を添付してコミュニティから要望を出している。

A コミュニティでできるものを選び分けて市に持ってこられたほうが、協働できるものは優先して要望に応えられる。

Q 新しい自治組織を立ち上げる際には、自治会長の立場をどのように利用されているのか？

A 区長制度が廃止になったとしても、コミュニティにおける自治会長の役割は全く変わらない。組織上はコミュニティ会長のほうが自治会長よりも偉く見えるが、地域をまとめるのは会長ではなく、自治会長。他の地区では自治会長会の会長の任期を終えた者がコミュニティの会長になる場合もある。

民生委員児童委員も活動が活発で区長と一緒に取り組んでいる。

コミュニティ作りは難しいが、まず走り出して肉付けしていこう、と。

A 行政は予算を減らすため、そして140自治会要望の対応のわずらわしさのため、区長制度を廃止したと私は思っている。自治会長の役割は非常に大きい。行政からの連絡を担っている。

Q コミュニティの自主講座は有料か？

A 資料に挙げている自主講座は指導者が会場を借りて実施しているものなので有料。ただし、市やコミュニティが実施する講座は無料。

Q 役員の任期は会長の2年を除き1年なのはなぜか？1年だとやっと分かり始めたころに辞めなければならない。

A モデルにした先進コミュニティも1年だった。詳しいことは分からない。

A 全市的にも1年が多い。あるコミュニティでは町内会長がコミュニティの役員のところもあり、1年で顔ぶれがガラリと変わる。やりにくいので市としては2、3年やって欲しい。

A 設立当初、役員のなり手がいないので、1年だけでも、ということからかもしれない。

Q コミュニティに対する一般市民の理解と意識が低いとのことだが、具体的にどのような対策

を採っているのか？

A 昨年から取り組んでいる自主防災の組織づくりには経験と知識を持ったリーダーが必要。県のリーダー研修に受講者を派遣するなど、リーダーを増やしていく。

Q 本当に啓発が必要なのは地域活動をやりたがらない人。その人たちへの啓発活動は？

A コミュニティ設立時にアンケートの実施や新聞を発行した。毎月発行のコミュニティ便りもカラー化した。理解していただくのは難しい。

Q 全市的にもコミュニティに対する意識は低いが、それ以前の問題として自治会の加入者が少ないということ。今年から11月に自治会加入促進キャンペーンを実施する。またコミュニティの事業に参加者として取り込んでいく。

● 役員のなり手がいないというのが実態。構成員が自らの団体でさえ活動から離れている。自らの活動ができていないのに協働を始めましょうというのが不安。役員の意識は高いのに市民にその意識が下りない。協働に向ける市民への意識付けが先なのかもしれない。

Q 少子高齢化、役員のなり手がいないといったことが原因でコミュニティを作ろうとしているのに、解決できていない。市民に対しどのような啓発を行ったのか。

A 役員は片手間にできない。健康福祉部会は女性や老人が多いので昼間に会議ができる。環境整備部会には市役所や消防などの現役の方が入っている。そんな方を取り込んでいけば何とかなるのでは。この地区は頼まれれば引き受ける土地柄もある。縦系列も残っており、自分が何をすべきか分かっているというところもあるが、役員選出は難しい。

● 今の状態でPTAがコミュニティに入ってしまうと、仕事が増え、逆に役員がますます敬遠されてしまう。いろんな役割を引き受けてくれるなど釘を刺される。地域に関わっていくことが役員だけで、それも半強制的になっている。運動会も地域と小学校の合同で実施、と言われたが、小さいからできる、のものもあるかと思う。

○ 文化祭も地域と学校の合同で実施する。青少年育成部会にPTAの役員が入ってもらっているが、その方には負担がかかる。PTAの役員以外の方でもPTAとして入ってもらってもかまわない。餅つき大会にはPTAも来るが、みんなお客様になっている。これではいけない、皆さん何かの役割をしてくれ、と行事を通じて引っ張り出している。

○ 部会の人や部会以外の人を自分たちの行事の中に入れていく。役員だけで背負い込むのではなく、部会を利用するようなやり方をすれば、上手くいくのでは？

Q 事務職員は市の職員か？

A コミュニティで採用する職員で地元の人。

● 鳥栖市の場合は、公民館主事は市で試験して5年間採用する。公民館長は自治会長会が推薦して教育委員会が任命する。主事はきるだけ地域の人を入れたいというのが願い。地域に繋がりがないとコミュニケーションが取れない。

○ 宗像のコミュニティセンターは地区公民館的な位置付けではないので、公民館主事のような者はいない。

● これからを展望すると、コミュニティセンターの職員でも公民館主事的な資格を持っていないとやっていけないと思う。

コミセンでやっている事業はわれわれが公民館でやっている事業と同じだ。公民館も区長会やPTA、婦人会といった地域の団体を網羅したメンバーで構成される公民館運営委員会を持

っており、そこで公民館の年間事業を話し合っているのです。地域自治組織に移行するときは、そっくりそのまま運営委員会が移行できると思っている。

Q 鳥栖市の地区公民館は祝日と年末年始以外年間全て開けている。コミセンはどうか？

A 毎週月曜日が休み。

● 問題は役をもらおうと嫌なので校区の組織に入らない婦人会や老人会。これらをどう取り込んでいくかだ。

○ コミュニティの今の部会はもともと公民館活動でやってきたものを分けていって、残ったものが公民館活動部会となっている。公民館という位置付けがコミュニティにスライドしていく考えもあっていいのでは。

Q 若い世代でやる気を持った人材だが、仕事の都合で参加が困難な人に対し、どのように地域活動に組み込んでいくのか。

A 具体的には取り組んでいないが、技術や趣味を持った人の情報は収集している。

A 会議を夜にするとか、研修を日曜日にするとか配慮して環境整備はしている。

Q 組織の中の「福社会」とは社会福祉協議会か？

A 社会福祉協議会のメンバー。

Q コミュニティの役員をやろうと思ったきっかけは？

A 原点はボランティア。できるところから始めた。

A 「行政のスリム化」にお手伝いができれば、と思った。コミュニティができれば市職員が減らせる。月2万円の報酬でやっている。ボランティアだ。

● 余談だが、ある調査で寄付をしなかった理由を聞いてみた。第一位は何だと思うか？それは「頼まれなかったから」。役員も頼まれてなることが多いと思う。頼むということは役割をつくるということ。役割があれば何かをしようとする。非常に単純なことに驚かされた。

Q この吉武地区、10年後はどうなっているか。どうなってほしい？

A 後世に残せる、みんなが帰ってくる環境をつくりたい。

A 今が悪いわけでもないが、今よりも良くなってほしい。

A 持続可能の社会になってほしい。

A 「やっぱり地元がいいよね」と思える地域にしたい。

Q 宗像市13地区全てこのように上手くいっているのか？

A 各地区温度差はある。この地区は上手くいっている。早くコミュニティができたからといって、上手くいっている訳ではない。農村はお互い助け合っていこうという意識がある。

Q 街の中のコミュニティはどうか？

A 赤間西は上手くいっている。行事をするにしても、他の部会に呼びかけて参加を広げている。大きなマンションがあるが、他の地区のお祭りに参加している。横への繋がりが広がっている。

A 会長会議で他のコミュニティの話の聞くと、皆さん頑張っている。いいところを真似しながら情報交換を深めている。

● 鳥栖市まちづくり検討委員会会長 お礼

(16:20終了)